



ードがありましたねえ。私自身も真面目な学生でしたよ。(笑)

それにしても、同級生の連中は各界で活躍していますよ。富士重工の佐方信博(元郵政事務次官)くんはずっと一緒に、しかも彼の奥さんは私の従姉妹なんです。それから、以前新日鉄の副社長をやっていた、現在新日鉄化学の社長をやっている今井大宗くん、リコー会長の三善さんになつてくると先輩ですね。片倉工業の会長でしたかね、有田正くんはたしか一年下ですよ。それにジャパンライン社長の北川武くんも先輩ですね。とにかく様々

な分野で活躍していますね。それと、熊本はわりと郵政関係は多いです。佐方くんも終戦前後にここ(熊本)の郵政局の業務部長をしてたですからね。とにかく熊本は、郵政は優勢ですね。(笑)その他、五高卒業ではありませんが防衛庁へ行った木下博生くんや現在中曽根総理大臣の秘書官をしている岩崎八男くんなど、熊本県は優秀な人物をたくさん輩出していますよ。

小異を捨てて大同に

熊本からは、優秀な人はたくさん出るので

略歴

大正3年1月1日生

昭和13年3月 東京帝国大学法学部法律学科卒業

昭和13年4月 東京電灯株式会社入社

昭和26年5月 東京電力株式会社引継入社

昭和53年6月 同社 取締役副社長

昭和58年5月 同社退社

昭和58年6月 電源開発株式会社総裁

インタビュー



このコーナーは県出身者で各界で活躍しておられる方々を紹介するとともに、県政への提言などをお聞きするものです。

地域振興のための電源立地に理解を

電源開発総裁 門田正三氏

今年六月、十二年ぶりに民間出身の電源開発総裁が誕生した。宇土市出身の門田正三氏がその人である。就任のあいさつに来熊された門田氏に、熊本での思い出や、ご専門の立場からの熊本の展望などをお伺いした。終始熊本弁で話されるなど、郷土愛の強い方で、年に一回は帰熊されているという。昔風のバンカラが残っていて、旧制五高気質というものを眼の当たりにしたような気がした。

熊本の発展に期待

私、熊本を離れて外から熊本を眺めているわけですが、とにかく故郷というものは懐かしいものですから、(総裁になつて)真つ先に熊本へやってきましたよ。熊本の発展のために、私にできることであれば微力ながらお力をお貸ししたいという気持ちです。

先ず将来の熊本を展望した場合、細川知事も現在力を入れておられる近代先端産業のセンターをこの熊本に仕上げていくということが必要だと思います。幸い熊本は、飛行場が

整備され、水が豊富で、労働力が割合に豊かと、有利な立地条件を備えていますので、非常に期待していますよ。

もう一つは、教育の問題です。昔は、熊本といつのは教育県でしたが、今はねえ…。とにかくもう一度熊本を教育県として再興できるよつ、若い人達の教育に心血を注いで欲しいですね。私は今、熊本県の肥後奨学会の常務理事をいたしておりますが、それは熊本県出身の若者が、地元だけでなく日本中で活躍する場をつかんで欲しいという願いからなんです。先口東京での熊本県人会の折、かつて

の教育県をなんとかもう一度再興させることができないだろうかと呼びかけたりしましたが、熊本県の高等学校の先生方が是非もう一回この点を見直して欲しいですね。現代の若者は率直に言つて昔程(は)気のあつた人はいなくなりましたね。東京に出てきた有斐学堂の学生あたりを見ましてもねえ。(笑)でさるなら熊本へ帰りたい…。と、もちろん熊本へ帰つて欲しい人もいるけど、中央で活躍の場を得たいというふうなフアイトのある個性豊かな後輩が出て欲しいですね。熊本へ帰るにしても、県のために帰つて、そうして自分がリーダーになつてやってくんだというふうな気概を持って欲しいですね。

懐しい五高と同窓生

私は宇土で中学まで行きまして、それから熊本の五高(現在の熊本大学)へ行つて東京として以来ですから、熊本を離れて五十年近くになりますね。五高の八十八周年の時でしたかねえ、卒業以来初めて行つたんですよ、高校(旧制五高)にね。「うわあー！東光原もつぶれたし、ヒラばかりいっぱい貼つて、まあせこましかなあ」というのが正直な感想でした。昔はゆつたりして、町自体が五高生を暖かく見守つてくれたといういい

すが、一つ気になるのは頭領が出ないということ。何かにつけ足の引つ張りつくる熊本人の気質というものは、ある意味において非常に稜(り)りよつりよつ、たる気骨ではあるんですが、一方において一人の頭領を盛り上げることが非常に出来にくい県ですよ、やはり、小異を捨てて大同につくという気持が熊本の方々に必要なところだと私は思っています。昔よく聞きましたよ。「送電線一つ通そうと思つと、こつちがよがたいと言つたところが、反対側では足引つばるもんだけんどんこんならん。」とね。(笑)

送電線の話が出たので、私の専門のエネルギー問題についてもう少し言いますと、産業が発展し国民生活が向上すれば、当然エネルギーは必要になってくるわけで、それを造り供給するための設備が必要になり立地を求めることとなります。

そういう立地の提供を余儀なくされた時、大乗的立場で理解していただかなければいけないのではないのでしょうか。決して反骨精神を空回りさせないようにして欲しいですね。

電源立地に理解を

電源立地の際のパブリック・アフェクションという問題は、単に熊本だけの問題ではあ